

第3回大阪市佃南小学校・佃西小学校合同統合協議会議事要旨

日時 2019年3月8日 午後7時半から

場所 佃西小学校 多目的室

委員：10名（最終的に11名）

傍聴者：0名

事務局：（教育委員会事務局教育政策課西淀川区担当）山本部長、横内担当課長、向井担当係長、
（教育委員会事務局学事課適正配置担当）大川担当課長、松本担当係長
（教育委員会事務局初等教育担当）亀川指導主事

事務局：本日は委員の皆様お忙しいところお集まりいただきありがとうございますございました。

第3回大阪市立佃南小学校・佃西小学校合同統合協議会を始めたいと思います。

まず、本会については、議事録の作成のため事務局にて録音させていただいておりますので、ご了承ください。また、配付資料及び議事録については後日ホームページにて公表させていただきます。

まず、事務局の自己紹介をさせていただきます。

教育委員会西淀川区担当教育部長兼副区長の山本です。担当課長の横内です。担当係長の向井です。

大阪市教育委員会事務局学校適正配置担当課長の大川です。担当係長の松本です。初等教育担当指導主事の亀川です。

本日は、本会会長である平田会長が所用のため欠席となっております。大阪市佃南小学校・佃西小学校合同統合協議会設置要綱第5条第4項により、菅野副会長に会長代行をお願いしておりますので、よろしくお願ひします。また、議事においても説明いたしますが、佃南小学校PTAが保護者会となる意向を踏まえ、4月以降要綱にある佃南小学校PTAを佃南小学校保護者会に改める改正を予定しておりますので、改めてご報告させていただきます。それでは第3回の開会にあたり、大阪市西淀川区長の塩屋よりご挨拶を申しあげます。

塩屋：みなさん、こんばんは。第3回目の統合協議会にご出席いただきましてありがとうございます。昨年、11月2日に統合していこう、という協議会としての意思決定をいただき、ありがとうございました。その後も、委員の皆様方、関係者の方、調査や準備などを頂いているということで、ありがとうございます。今回はそういったことを委員の皆様方と共有し、それを通じ、統合に至るまで、そして統合後も佃南と佃西の校区で学んでいる、学んでいく子どもたちのためにいい教育環境をつくることができればいいなと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。今後の予定としては後ほど説明があるかと思いますが、統合協議会としての意思決定をいただいておりますので、4月に教育委員会会議にて固めていただいて、5月市会で議論いただいて最終確定となってくると思われますので、本日のご審議よろしくお願ひいたします。

事務局：それでは、これからの議事の進行は菅野副会長にお願ひいたします。

菅野：みなさん、こんばんは。それではこれから第3回大阪市立佃南小学校・佃西小学校合同統合協議

会を開会します。お忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。本協議会については現時点で10名の参加となり、委員名の過半数を超えていますので、協議会として成立しています。式次第にそって進めてまいります。各課題の整理状況について事務局よりご説明願います。

事務局：【佃南小学校の現状について…資料に沿って説明】新2・3年生の学級編成について、松井校長先生より説明をお願いします。

松井：原則複式学級になりますが、2年生と3年生ではカリキュラムも全く違いますし、低学年と中学年ということで発達段階も変わりますので、体育や音楽であればいっしょにできますが、算数などの教科指導については試験対応なども含めて分割してやらなければ授業そのものが成立しにくいということもあります。与えられた人数の中で、担任としては2年生・3年生としてそれぞれ充てていきたいと思います。行政的な報告としては複式学級としての扱いになるかと思いますが、校内対応としては全学級とも単学級としての扱いとして進めることとしております。

事務局：【2020年4月、統合後の佃西小学校の児童数（概算）について…資料に沿って説明】

菅野：次に各課題の整理状況について、事務局より説明願います。

事務局：【各課題の整理状況について…資料に沿って説明】

井上：今西に通っている児童は佃通にでて通学していない。ここまで出ずに、真ん中の道を通っています。そこも通学路になっていると思うんですけど、なぜ佃通を通らせるんですか？まだこれは決まっているの？

横内：そうですね、この時に立ち会ったメンバーの中では、そうした方がいいんじゃないか、という意見がありました。

井上：今話聞いてたら歩道があるところしかあかんというような口ぶりやった。真ん中の道路には歩道なんかありませんからな。今通学してる子どもはダメやということになりますやん。

阿南：こないだいっしょに立ち会いましたんですけども、3丁目と4丁目の境から交通の量が全然違うんです。

井上：真ん中の道路も？

阿南：真ん中の道路も。大型車が通るんです。トレーラーとかね。だから5丁目の南小学校からくる道は歩道があるんです、一方通行でね。だから、西小学校区に関しては今まで通りでもいいんじゃないですか。南の子どもがどこから出てくるか、ということに関しての調査。あの道から行くと、交通量が全然違うし。大型が通るんです。だから、南の子どもがバス通りを行かず中の通りを通るとなると危険度が高くなるんです。3丁目の場合は、ほとんど大型車は通らない。朝9時までは通学路で通行禁止になってますよね、一応。今までの西の児童は今までのままでいいんじゃないかなとは思いますが。ただ、南の児童がマイシティから出てきます、今は通学路があっても、バス通りまで出てこない。みんなマイシティよりのもう一つ向こうの道を通ります。で、ファミマまで出てきてやっとならバス通りに出てくる。

井上：神崎川寄りの子どもも、この道を通る子は多いんですか？

阿南：津田さんとこの向こうの方にも、ローズマンションも含めて15人くらい子どもがいてるんです。その子どもたちは歩道を使ってバス通りまで出てきます。で、南に行く子はそのまま渡って行きます。西に行く子どもここへきてそれからまっすぐ行きます。だから見てもらったら大型車がめちゃくちゃ通るんです。

横内：井上会長、見てもらったらこの辺りは町になってるんですけど、こっちからこのあたりは工場に

なっていて、一回こっちに出て、歩道を歩いた方がいいんじゃないか、ということで。今回あまり西の観点で検証はしなかったんですけども。決定ではないんですが、メンバーの中では、こんな感じかなあという話になりました。

井上：ちょっと違和感を感じたんで。

阿南：4丁目のパラツィーナの場合、市営住宅の横には歩道があるんですが、一つのところには歩道がないんです、バス通りに入るまで。そこに駐車をする車が多いので、もう一つ向こうまで行って、こっちに出てくるか、とかね。極端な話、パラツィーナの場合は出てまっすぐ阪神電車のところまで行って、千舟の子と同じように行くことも、安全面から考えればいいんじゃないかと思います。

中本：基本的に集団登校？

阿南：バラバラですね。

中本：区はどう考えているの？

横内：西は集団でしたっけ？

北山：できるだけ集団で、ということにはなっていますが集団下校という形はとっていません。

阿南：家庭の事情でどうしても遅くなる子もいます。早い子は集団登校もできるかもしれないけれど、遅い子は8時25分に入れるかどうか、という感じになる。それを集団にして、高学年が引率していきなさい、ということにしても、今までそういう形式をとっていないので、前もって保護者さんとの話し合いが必要ではないか。

中本：南から西にこれから登校するお子さんについては、新しい道なので、最初の何年かはそういったことも考えた方がいいんじゃないですか？

横内：それは、これから受け入れていただく西の校長先生のご判断になるかと思いますが。

中本：子どもはすぐに慣れるとは思うんで、慣れたらバラバラでもええんかもしれんけど。

横内：今通っている子どもたちのポイントを調べると、3つか4つのマンションや地域から出てきてますんで、来年になるとさらに人数が減りますので、その子たちの登校ルートというのは厳密に把握できるかとは思いますが、それを確認して、校長先生とも話しながら…。

中本：点在はしてないんやろ？やったら集めやすいとは思うんや。

横内：ブロック、時間とかルートとか、決められるんであれば決めたらええかなと思います。

中本：慣れるまで。

横内：はい。そこはまたお話をしてやっていきたいと思っております。

菅野：通学路については、保護者とかPTAは話に入っていないの？

横内：まだ全然。

菅野：まずは、それをした方がいいんじゃないか。

富隆：西に通っている子で、1年生を含め、5丁目あたりから来てる子がいるんですけど、通称パンダ公園、市営住宅の前の公園の前の道を通って、3丁目の中を抜けて行ってる道があるんです。

横内：ここからは確かに住宅街になるんです。

富隆：そこまでも、道の端っこを通って、市営住宅の公園側の道を歩いてきているか、もう一本裏側の道を歩いてきている。こっちの方が、3丁目の中に入った方が、バス通りよりは、車も通らないし、通っても地元の人なので安全だと思うんです。

阿南：5丁目の神崎川よりの家から西に通っている子が3~4人、南に通っている子も合わせて15~16人いてるんです。4丁目なら、まだいいんですが、5丁目の川に近い道から来るとものすごく危ない。

消防署の通りは無理です。朝早くから大型車やトレーラーが入って信号はない、ということを考えると、5丁目の子どもに関してはバス通りまで歩道があるので、出てきてもらった方が安全じゃないかなと私は思う。

井上：そやな、あの道は怖いな。

阿南：井上さんはよくご存じやおもう。坂になってるし、上からボンボン降りてくる。それを考えれば、申し訳ないけれど、5丁目の子どもに関してはバス通りまで出てきてもらった方が安全じゃないかなと思う。

富隆：今5丁目から通っている子は、通学路が定められたらどうなるのか？

松井：今は、学校選択制で西を選んで通っている子は、保護者の責任において通学している、ということになっているので、校区として通学路が設定されてしまえば、一定のルールに従ってもらうことになる。もちろん、自転車の前と後ろに子どもを乗せていくというのはあかんとは思いますがね。車で送り迎えをしているおうちもある、という現実もあります。ただ、統合されたら、学校が定めたルールに従ってもらうべきやとは思いますが。今はルールがない、というだけです。

横内：一度、学校と事務局と見守りの方で話を固めて、で、保護者の方の意見も聞きながらまとめていくということにさせていただきたい。

中本：通学路は会社の関係で交通量が変化するので、流動的なものやないですか。いったん、基本的にこうしようという形をとっておいて、後は保護者の方や地域の方とお話をして、変えていったりとかでもいいかと思う。

阿南：学校選択制で佃西を選んだ佃南の児童は、遠いからといって、佃西小学校へ車で送ってくる。

塩屋：その点は、学校選択制の案内・周知を継続していきますので、その際にも通学の際の安全確保を責任もって選択していただくということをよりわかりやすく周知していきます。現に通っていらっしゃる方のご意見なども聞きながら、最終的には校長先生として通学路の安全を確保していただくという責任があるかと思しますので、ご判断いただくというやり方になっていくんじゃないかなと思います。

阿南：中学校は通学路がないですね？中学生のお兄ちゃん、お姉ちゃんといっしょに行く、ということもある。そのあたりもどうするのか、ということですね。

塩屋：新しく統合された佃西小学校の校長として、いろいろなご意見を頂戴しながら、通学路はここです、と決めていただくことになる。

中本：佃ウォークの時に見て回るし、学校の交流事業の時に、南小学校の児童が西に移動することになると思うんですけど、見守り隊とかに出てもらうように、南小のPTAより地活会議で言ってもらったら。

北山：時間帯もいろいろかと思しますので、難しいかと思っています。

中本：学校の先生だけ、というのも負担が大きくないか？ 地域の方もご支援いただけないか。

阿南：個人的な用事がない限り、できる限り協力はしますけど。

中本：南のPTAの方が発言してもらって。

阿南：ローソンのとこの信号だけやと思います、あそこは大型車もまわるので、問題なのは。

内田：前もって早い段階で日にちがわかるのであればある程度は都合をつけることはできると思うんですが。

中本：行事日程の予定はできるよね？

北山：最低1か月前から決定はできると思いますし、連絡もできるかとは思いますが。

中本：両校のすり合わせとか。

塩屋：保護者の皆様や地域の方のお力添えも、可能な限りの範囲で、いただけるかもしれませんね。

そういったことに取り組んでいただくことが、いいことなのかもしれませんね。

中本：なくなる学校の物品を、飾る南小学校のルームみたいなのができたらいいんじゃないかな、と思う。僕の中学校もなくなった学校やけど、閉校した体育館にそういった場所がある。佃南小学校が見たい、という人はそういうところに入ったら見れる。できれば、そういったこともしてあげたら。一つのアイデアとして。

菅野：次に、統合までのスケジュールについて、事務局よりお願いします。

事務局：【統合までのスケジュール…資料に沿って説明】

中本：統廃合に関する要望の中に、南小学校の教員に関しての要望というのがないんですが、そういう要望はなかったですか？クラスが増えて、教職員が増えるのであれば、できれば、特に低学年の子どもたちの先生を南から西に異動させてあげれば、子どもも安心するやろと思います。

大川：教職員の人事異動に関しては、子どもたちの心理的負担ができるだけ小さくなるように、また両校長先生と人事担当課と話をさせていただくことになるんですけども、我々からも人事担当課には配慮するようにきっちり伝えておきます。

内田：もちろん南小学校の先生方に異動していただくのがベストかな、とは思いますが、統廃合によって、定数以上に補助の先生をつけていただく配慮をしていただくのがいいかな、と思います。プラスアルファ、多めに配置していただきたい。大阪市の先生の人数が厳しいのは知っていますが、先生が多ければ、子どもたちに目も行き届くでしょうし。

大川：正式に決定しているわけではないんですが、統合に向けて先生方の負担も大きくなるわけで、この4月から加配の要望はあげております。そんな何人も、というわけにはいかないんですけども。

内田：入ってからの佃西の要望もありますが、4月から南小学校でも閉校に向けての準備というのが始まります。人数が少ない中で、そういったことを先生方がしなければならぬということで、子どもたちを見る目が少なくなるんじゃないか、という懸念を私はしております。基本先生は子ども中心でいてほしいんですが、加配の先生を南に入れていただきたい。私自身、子どもはこの3月で卒業しますけども、あと一年、できる限り南小学校のお手伝いをするつもりでいます。教育委員会でも、人手をつけていただければ。

菅野：統合に向けて教員は増員されるんですか？

大川：今、要望をあげているのは統合前です。当然、統合後も、未来永劫ではないですけども、継続的に、ある程度の年数はいけるように要望はあげていくつもりです。

内田：教員も増やしてほしいんですが、養護教諭の先生も二人くらいいてもいいんじゃないかなと思います。教室には行けないけれど、保健室には行ける、という子もいるかもしれませんし。お母さん目線で申し訳ないんですが、保護者ってそんなもんです。不安を取り除いていただいて、安心して子どもを学校に通わせたい、そのためにはどうしたらいいか、ということを考えていただきたい。

塩屋：養護教諭もあるでしょうし、カウンセラーの先生の巡回を多くしてもらったり、要は子どもたちが早く新しい学校に慣れるように、という強いご要望ということですね。

中本：交流事業について、子どもの学力や体力のすり合わせ、というのも考えていただいている？

松井：基本的に学校がやっているカリキュラムというのは大阪市内どこも同じです。平均の数字なんて

というのは、我々のように小さい規模の学校ではあまり意味がない。5人の学年で平均を出しても何の意味もないので、数字のすり合わせということではなくて、カリキュラムのすり合わせ、ここは習っているよ習っていないよ、ということがないように、すり合わせをしていきたいと思っている。交流事業も、子どもたちの特別活動でやっていますのでご安心を。

中本：そういうことも気にせなあかんのかな、と思って補足で言わせてもらっただけです。

松井：本校については本当に人数が少ないですので、子どもたちは常に複数の先生にみていただいている。補助の先生であったり、加配の先生であったり。そのベースがあるので、いきなり担任の先生だけが一日一緒に、補助の先生もなかなか入れない、ということになれば、不安感を持つかな、というのはあります。

中本：現Pの会長さんには、千舟だけではなくて、できるだけPTAの中に佃や佃南の方も入れるように、という話はしました。

阿南：今、西小学校は当然担任の先生は一人でやっていらっしゃるんですかね？

北山：実は現4年生はちょうど80人ですので、本来2クラスであるべきところ、私の裁量で3クラスにしているので、加配の先生もいません。授業中、職員室には誰もいない、という事態になっています。もちろん、担任は一人です。区役所の予算で来ていただいているサポーターの先生などはいてますし、支援が必要な児童への配慮は行っています。ただ、1学級の人数が多いので、厳しい状況にはあります。女性の先生が4名産休に入っているなど、講師の先生には来ていただいています。そういったところが心配なところかな、とは思っています。

阿南：南の場合は、4人とかでも複数の先生にみていただいている、ということなので、マンツーマンになっているということかなと思うんです。それがいきなり30人のところに入って、南から来る4人が同じクラスになるとは思えない。自分の友達がいなくて行くので、不安があるとは思っているので、気を付けていただきたいと思う。1~2ヶ月くらいは、見守っていただけるとありがたいと思います。

中本：現Pの会費をどうするのか、という問題もあるでしょうね。

塩屋：それはPTAの中で話し合っていたらいいかなと思いますね。

中本：保健室が陰気くさいというのは、校長、陽気なつくりにはできませんの？

北山：473名の児童がいて、養護教諭は一日、お昼も食べれないくらい走り回っています。先ほども、最後まで残って仕事をしていました。そういったところもありますので、きれいにするだけで精いっぱいかな、というふうに思います。

菅野：孫が良く世話になってるけど、別にうっとおしいかと思ったことはないけど。

横内：いろんなご意見ありがとうございました。特に通学路に関しましては、この5月に通学路安全プログラムというのがありますので、ぜひ我々の気づいていないところを教えてくださいとおもいます。この機会に、佃西に通っている保護者の方のご意見も聞いていきたいとおもいます。たびたびこういった機会をもつのも難しいかと思っておりますので、何か気づいた点がございましたら、事務局に気軽にお聞かせください。また、委員の皆様、団体の方で役職が変わるとか、委員を続けることが難しいというようなご意向がありましたら、事務局までご連絡いただきますようお願いいたします。

菅野：以上をもちまして、第3回佃南小学校・佃西小学校合同統合協議会を終了いたします。なお、今後各課題について、事務局の方で関係者との調整を重ねていってください。ありがとうございました。